

令和3年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜（I型）
教育学部
第四類（生涯活動教育系） 音楽文化系コース
小論文問題 解答例又は出題の意図等

出題の意図

【問題Ⅰ】

問題文全体には、記譜と演奏の関係性についての考察が述べられている。問題Ⅰでは、「記譜されたものを演奏する」という一面的な行為について洞察し、再検討する力を問うている。

1. 指定された箇所の英文を正しく要約した上で、その内容と自身の体験を関連させ、根拠に基づき論理的に意見を述べる力を問うている。

（要約例）音楽を記譜することにより、音楽作品を何世紀にもわたって正確に保存することや、演奏家が効率的に過去の作品を学習することが可能になった。一方、楽譜に縛られることにより、演奏家独自の表現が阻害される懸念がある。

2. 指定された箇所の英文を正しく要約した上で、その内容を現在の事例と比較・分析しつつ、未来の状況について論理的に推論する力を問うている。

（要約例）J.S.バッハ、モーツァルトそしてベートーヴェンなど過去の作曲家たちは、現代ほどは楽譜を重要視していなかったと考えられる。その理由として、当時の作曲家たちが楽譜を書くのは、様々な場所での演奏のためであり、保存のためではなかった、ということが第一に挙げられる。第二に、彼らは楽譜のみに依存せず、即興的な演奏も可能であったという点が挙げられる。

【問題Ⅱ】

予測不可能で、価値観が複雑化する現代社会において、個人や集団の幸福度を高め、よりよく生きていくかについて「ウェルビーイング」の概念を中心に議論されている。これから音楽や音楽教育を専門的に学ぶ者として、音楽や音楽教育に関わりながら自身がいかに向上するべきか、また自身と社会との関わりをどのように捉えるべきかについて具体的に考えることができるかどうかを問うている。